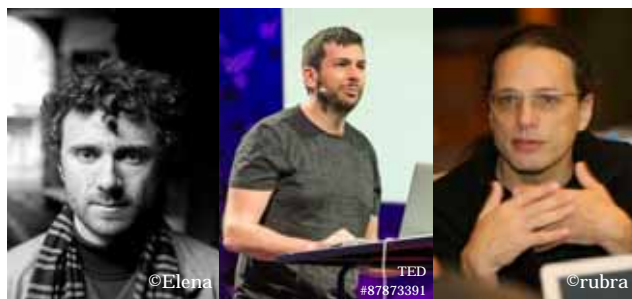


虎ノ門から、20年後の都市とライフスタイルのあり方を発信
都市の未来を考える国際会議「Innovative City Forum 2016」開催
～ 今回は「東京の20年後」や「人工知能との共生」にフォーカス ～

森ビル株式会社が運営する森美術館(理事長:森佳子)、社会人向け教育機関アカデミーヒルズ(理事長:竹中平蔵)、及び一般財団法人森記念財団都市戦略研究所(所長:竹中平蔵)は、都市の未来を考える国際会議「Innovative City Forum(イノベティブ・シティ・フォーラム、以下ICF)2016」を2016年10月19日(水)・20日(木)の2日間、虎ノ門ヒルズで開催します。

2013年から毎年10月に開催しているICFは、「先端技術」「都市開発」「アート&クリエイティブ」の3つの分野から世界のオピニオンリーダーが集い、未来の都市とライフスタイルのあり方を議論する国際会議です。これまでに、バイオテクノロジー、デザインやアートの新たな潮流など、都市の未来を考える新たな視点を提示してきました。



トーマス・ヘザウィック プレイス・A・ヤルカス ゲルフリート・ストッカー

4回目の今年も、基調講演に英国デザイナーのトーマス・ヘザウィック氏、人工知能分野で新たな取り組みをしているグーグルのプレイス・アグエラ・ヤルカス氏、オーストリアのアートセンター:アルスエレクトロニカの総合芸術監督ゲルフリート・ストッカー氏を迎え、都市の未来に対する各氏のヴィジョンを伺います。また、今回は「Shaping Mirai Tokyo」をメインテーマに設定、参加者を交えてブレインストーミングを行う「未来東京セッション」を新たに開催します。

なお、ICFは、各国のスポーツ担当大臣や有識者が集い、スポーツ、文化、ビジネスによる国際貢献などについて議論、情報発信する「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム()」(文部科学省主催/本年10月開催/東京会場:六本木ヒルズほか)の協賛イベントに認定されています。

【Innovative City Forum 2016 開催概要】

会期:	2016年10月19日(水)・20日(木)
プログラム委員会:	竹中平蔵、市川宏雄、南條史生、伊藤穰一
参加費:	全4セッション(キーノート、先端技術、アート&クリエイティブ、未来東京) 各5,000円(税込)
会場:	虎ノ門ヒルズフォーラム(虎ノ門ヒルズ森タワー5階)
主催:	一般財団法人森記念財団都市戦略研究所、森美術館、アカデミーヒルズ
共催:	国際交流基金アジアセンター、MIT Media Lab
協力:	公益財団法人 国際文化会館、WIRED 日本版、株式会社ロフトワーク
詳細・お申込み:	ICF公式ホームページより申し込み (http://icf.academyhills.com)

「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」は、文部科学省が主催する、スポーツ、文化、ビジネスによる国際貢献や有形・無形のレガシー等について、議論、情報発信し、国際的に機運を高めるためのキックオフイベントとしての国際会議で、10月19日(水)～22日(土)まで、京都及び東京で開催されます。

当社は、ICFの開催を通して、グローバルビジネスセンターとして新しいビジネスやイノベーション創出拠点となる虎ノ門ヒルズを舞台に、「20年後の都市とライフスタイルのあり方」を世界に向けて発信してまいります。

【本件に関してのお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室 渡邊、プロ

TEL: 03-6406-6606 FAX: 03-6406-9306 E-mail: koho@mori.co.jp

Shaping Mirai Tokyo

TOKYO2020 に向けた大きな変革に動き出した東京の 20 年後にフォーカスします

いま、東京では、スポーツイベントであるオリンピック・パラリンピックのみならず、2020 年を契機とした様々な取り組みが展開されようとしています。20 年後の都市とライフスタイルを議論する ICF では、メガシティ東京を題材に、先端技術、アート&クリエイティブ、そして都市開発や価値観など、様々な視点から未来のライフスタイルを解き明かします。

見どころ

Keynote Session

竹中平蔵(慶應義塾大学名誉教授)によるブレインストーミングに続き、ロンドン五輪の聖火台のデザインなどで知られる英国デザイナー、トーマス・ヘザウィック(ヘザウィックスタジオ創設者、デザインディレクター)、オーストリアのアートセンター、アルスエレクトロニカの総合芸術監督を務めるゲルフリート・ストッカー、人工知能のエキスパートであるブレイス・アグエラ・ヤルカス(グーグル プリンシパル・サイエンティスト)の各氏が登壇します。

先端技術セッション

「人工知能との共生」と「ニューメタボリズム:創造性のクレブス回路」をテーマに、北野宏明(ソニーCSL代表取締役社長)、ネリ・オックスマン(MIT メディアラボ准教授)等が登壇、モデレーターに伊藤穰一(MITメディアラボ所長)を迎え、具体性が増してきた人工知能と共生する都市生活や、未来の東京を舞台に新たなメタボリズムの可能性を議論します。

アート&クリエイティブセッション

「宇宙に象徴される極限環境で、人がいかに生きるか」という命題をアーティストのトム・サックス等が登壇、モデレーターに南條史生(森美術館館長)を迎え、議論します。また国際交流基金アジアセンターと共同で、アジアで独自のアプローチをしている専門家、建築家、アーティストからの多様な事例紹介をもとに、未来のアジアのライフスタイルを探ります。

未来東京セッション

五輪に向けて大きく変わる都市基盤と、新しい技術や価値観で変わる商品やサービスで、東京はどう進化するのか。20 年後(2035 年)の東京に住む人々のライフスタイルについて、モデレーターに竹中平蔵(慶應義塾大学名誉教授)を迎え議論します。セッションでは、Future Living、Future Work、Future Mobility、Future Entertainment の 4 つのテーマに分かれて 2035 年の東京のライフスタイルを討論するグループディスカッションを行い、最後のラップアップでは、参加者全員で 2035 年の東京の姿、より良い東京を創るために何をすべきかについて議論します。

【参考】スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの官民ワークショップにおいて ICF セッション開催

「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」で、世界経済フォーラム、国内トップ企業等が連携し、新しい経済・文化の実現に向けた施策を議論する官民ワークショップにて、ICFセッションを開催。「Future Tokyo as Innovative City」と題して、竹中平蔵(慶應義塾大学名誉教授)、市川宏雄(明治大学公共政策大学院教授)、南條史生(森美術館館長)、伊藤穰一(MITメディアラボ所長)をはじめとする、ICF2016 登壇者が参加します。

「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」(主催:文部科学省)協賛イベントに認定されました

「都市とライフスタイルの未来を描く」を開催主旨とする国際会議「Innovative City Forum (ICF)」
今回「Innovative City Forum (ICF)2016」は「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」と連携して開催することとなり、2020 年そしてその先に向け、新しいビジネスの可能性を生み出すといった「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」の目的を実現するためにも、お互いに協力し、一体となって盛り上げていきたいイベントです。特に本年の ICF では、20 年後の東京を題材したセッションや、人工知能(AI)をテーマにしたセッションなど、様々な視点から未来のライフスタイルを解き明かす議論の場が企画されています。

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムに参加していただく皆様が「ICF 2016」に参加できれば、参加する皆様にとって貴重な機会になると考えております。

このため、今回、「Innovative City Forum (ICF) 2016」を、「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」の協賛イベントとして認定し、お互いに成功を目指し、同じ時期に同じ場所で開催し連携を図っていくことになりました。

平成28年6月10日

文部科学省スポーツ・文化・ワールド・フォーラム準備室